

在日ブラジル人を対象とした乳がん・子宮頸がんの啓発教育

中嶋 麻子、池田 更、堺 淑恵、島田 彩花、首尾木 理香、田井 綾乃

I 緒言（目的）

滋賀県は在日外国人登録者の中で、ブラジル人の割合が全国的に見ても高い地域である。しかし、在日ブラジル人が日本で医療を受診することや、健康診断などの予防保健活動に参加することなどは、言語・情報面の障壁から、困難が伴う。そこで今回、滋賀県の中でも在日ブラジル人が多い地域の一つである愛荘町において、在日ブラジル人女性を対象に言葉・情報の障壁を軽減することで受診行動がどう変化するかを評価し、それにより今後受診率を維持向上させるうえでの課題を明らかにすることを目的に実習を行った。

II 対象と方法

1) 乳がん・子宮頸がん検診の実施

愛荘町が実施している乳がん・子宮頸がん検診のうち、2011年10月1日実施分について、同町在住のブラジル人女性へ受診を呼びかけた。広報活動として、サンタナ学園、ブラジル人を雇用する企業、ブラジリアンマーケット、コンビニエンスストアなどに、ポルトガル語のビラ・ポスターの配布・掲示を依頼した。愛荘町定住外国人支援員の協力を得て、事前に問診票をポルトガル語に翻訳した。また、検診時には、通訳者を配置し、受診者に学生が付き添った。なお、検診料の自己負担額は乳がんで1100円、子宮頸がんで1000円であった。町から送られてきたクーポンを持参した人の自己負担額は無料だった。

2) 乳がん・子宮頸がんに関する教育

検診受診後のブラジル人を対象に、乳がん・子宮頸がんに関する教育を行った。事前に、ポルトガル語の資料および視覚情報を多用した教材を準備し、当日は通訳者の協力を得た。

3) 質問紙調査

検診受診後のブラジル人を対象に、ポルトガル語の質問紙を配布し、その場で回収した。質問紙は2009年度に愛荘町女性住民を対象に実施された「女性の健康支援に関する実態調査」（以下、愛荘町調査）を参考にして作成し、質問内容は、過去の検診受診経験、過去未受診の理由、今回の検診の情報源・受診理由・感想などとした。結果の一部は、愛荘町調査の結果と比較検討した。

III 結果・考察

1. 受診者について（人数、情報源、受診理由）

今回の検診では、16名が受診を申し込み、うち2名が、乳がん検診を希望したものの40歳未満につき対象外となり、1名は子宮がん検診車の中で「やっぱり決心がつかない」とキャンセルしたことから、13名が

実際に受診した。受診の情報源としては、友人・知人からや広報から情報を得た人が多かった。また受診を決めた理由として、受診を勧められる年齢になったからや、健康カレンダー等を見て、在日ブラジル人に配慮した検診であると知り、という点を挙げた人が多かった。(添付資料図2, 3参照)

2. 乳がん検診について

乳がんの知識に関する質問では、「知っている」と答えた割合が愛荘町住民では約 59%、ブラジル人受診者では約 77%であった(図1)。このことから、ブラジル人受診者の乳がんに関する知識については比較的意識が高いことが伺われた。

図1. 乳がんについて知っていますか？

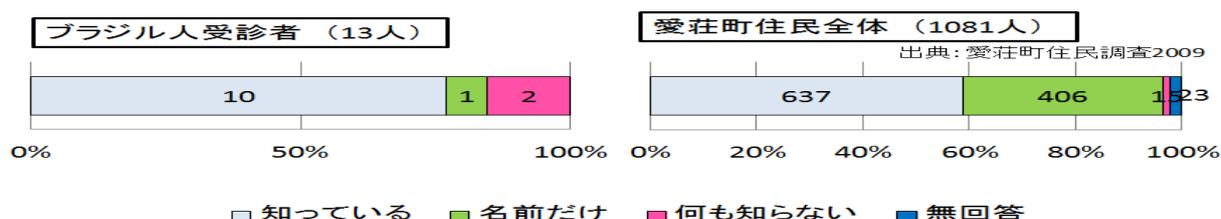
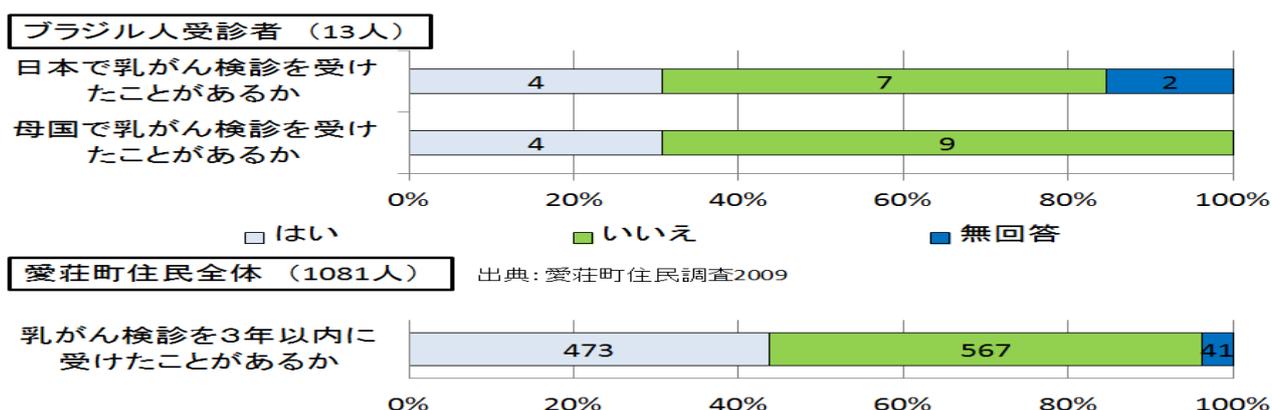


図2. 過去の乳がん検診の受診状況

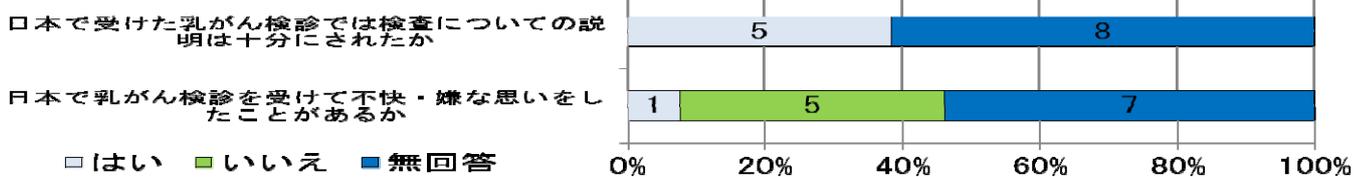


一方、過去の検診受診率に関しては、図2に示すように、ブラジル人受診者の方が愛荘町住民より低かった。また、母国で受診していた率と、日本での受診率に大きな差は見られなかった。高い意識を持っているにも関わらず、このような結果になった背景にはどのような事あるのか、以下で考察したい。

当日、乳がん検診を受けた理由として一番多かった回答が「受診が勧められる年齢になったから」であった(添付資料図2参照)。今回の対象者の多くは40~50才代で、日本滞在期間が10年以上であった(添付資料表1参照)。乳がん検診の受診が勧められる年齢は40歳以上とされていることから、彼らが母国にいたころはまだ受診年齢に至っていなかったことが考えられる。その後、乳がんについて比較的高い意識をもつ彼女らが、日本で受診年齢をむかえ、受診したくても躊躇していたとすると、今回、言葉や情報の障壁を軽減させた事が、彼らの受診行動につながったのではと考えられる。

また、日本で受けた乳がん検診に対しては、比較的好意的な回答が得られた(図3)ことから、日本での乳がん検診そのものに対する抵抗意識は、さほど大きくないのではと思われる。乳がんに対する意識の高さが日本での受診行動に必ずしも結びついていない背景には、やはり受診に至るまでに、言葉や情報の障壁があるのではないかと推測される。

図3 過去に日本で受けた乳がん検診について



3. 子宮がん検診について

子宮頸がんに関する質問では、愛荘町住民では「知っている」という人が約39%で、「名前だけを知っている」人が約56%と、名前だけを知っている人の方が多かったのに対し、ブラジル人受診者の方が「知っている」と答えた人が約77%おり、「名前だけを知っている」人が約15%であった（図4）。このことから、ブラジル人受診者の方がより良く子宮頸がんについて知っていることが伺われる。過去の検診受診については、ブラジル人受診者の母国での受診率と、日本での受診率に差は見られず、また愛荘町住民との受診率と同程度であった。また、受診者全員が子宮頸がん検診の受診対象年齢（20歳以上）であるにもかかわらず、子宮頸がんだけ受診しなかった人もいた。

図4. 子宮頸がんについて知っていますか？

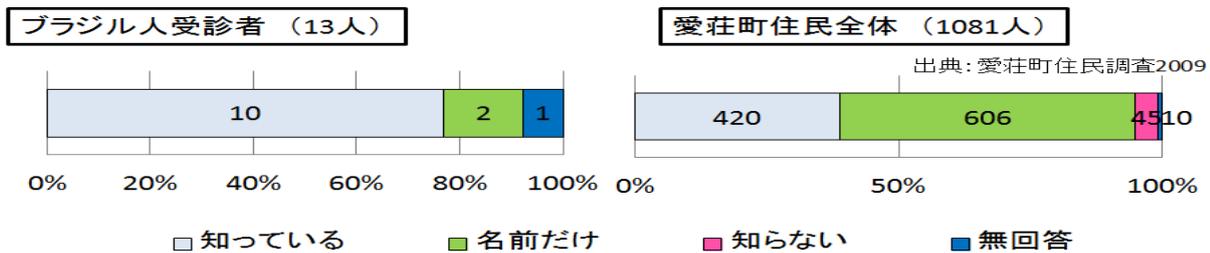
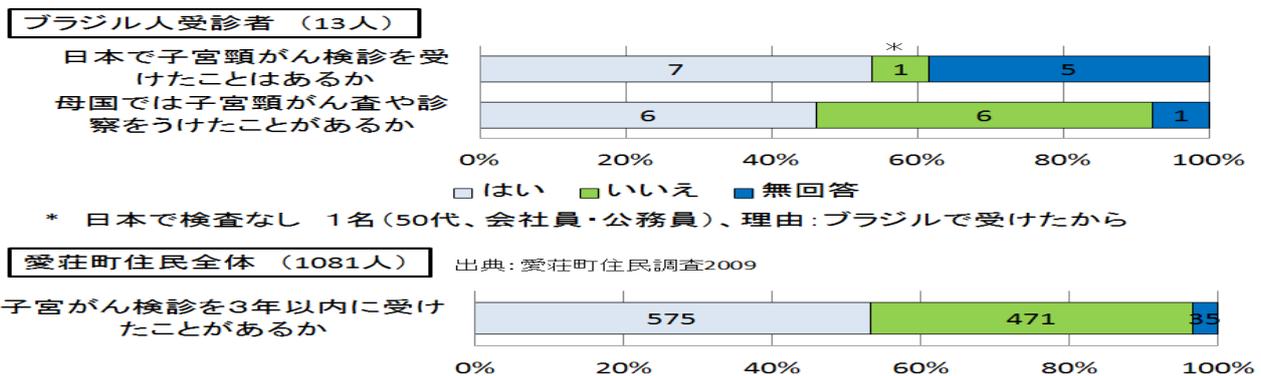


図5. 過去の子宮頸がん検診の受診状況

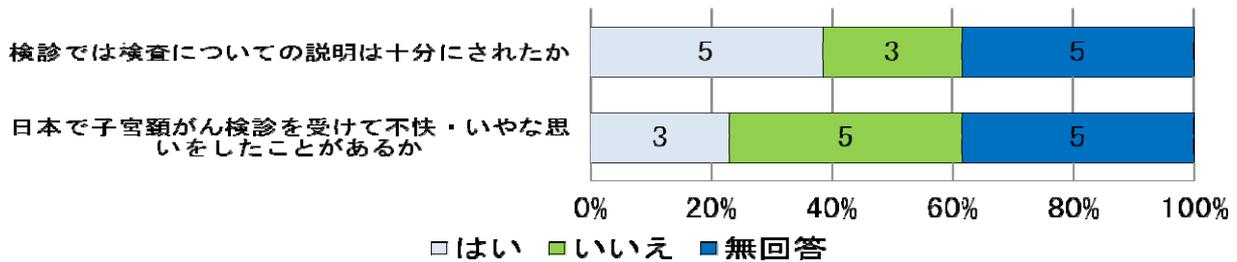


過去に日本で受けた子宮頸がんの検診に対しては、少なからず説明が不十分と思った人や、不快・いやな思いをしたという人がいた（図6）。このような心理的不安が、前述した子宮頸がんに対する受診への障壁を高くしているのではないかとと思われる。

このように、子宮頸がん検診については、我々が軽減しようとした、言葉や情報の障壁以外にも、受診その

ものに対する障壁が大きい可能性がある。また他の理由として、ブラジルでは妊娠時に子宮頸がん検診を受ける方が多いとのことから、「自分は追加の受診は必要ない」と考えている人が多かった可能性が考えられる。ただし、子宮頸がん検診は一回受診すれば十分というものではないため、今回の教育では定期的な検診の重要性を伝えた。

図6. 日本で受けた子宮頸がん検診について



4. 今後の受診希望について

最後に、「乳がん検診を今後受けていただけますか？」という質問に対しては、ほぼ全員が「はい」と答えており（添付資料図11参照）、また、「丁寧に対応してもらってよかった」「いつも病院で受けているような感じで、とてもよかった」などのコメントも頂き（添付資料表参照）、今後の受診率の向上に大きな期待が持てる結果となった。これからも、在日ブラジル人の乳がん検診に対する希望を叶えるためにも、言葉や情報の障壁を軽減させる取り組みが重要だと思われる。また、「子宮頸がん検診を今後受けていただけますか？」という質問に関しても、ほぼ全員が「はい」と答えていた（添付資料図18参照）。子宮頸がん検診には、言語・情報の障壁以外にも心理的なものなど、様々な障壁があると思われるが、我々の啓発活動を通して、今後の子宮頸がん検診についてほぼ全員に前向きな気持ちを持ってもらえたのではないかとと思われる。

壮年期・若年期女性の乳がん・子宮頸がん罹患率は近年増加しており、早期発見・治療が重要である。今後更に検診受診率が向上した際に、日本人と在日ブラジル人との受診行動の差が広がらないような配慮が求められる。

IV まとめと提案

日本人と在日ブラジル人との間で、乳がん・子宮頸がんの受診行動に差が出ないようにするために、

- ・地域の広報に、ポルトガル語で検診に関する情報を載せる
- ・今回の検診で新たに利用した広報ツール（ポルトガル語に翻訳した問診表など）を活用する
- ・検診当日には通訳を配置する
- ・検診当日に、ポルトガル語での案内（順路等）を設置する

などの工夫が必要であると考えます。また、長浜市のように在日ブラジル人向けの先進的な取り組みを共有するなど、自治体ごとの横のつながりを促進すべきである。

今回の在日ブラジル人を対象とした活動を行って、滋賀県にはかなりの数の在日外国人がいることを再認識するとともに、彼らが抱える生活上の困難も多く目の当たりにした。彼らは、保健問題にとどまらず、教育、労働などあらゆる面で日本社会において生きにくさを感じている。国籍こそ外国人であるものの、同じ

日本に住み、日本の産業を支える重要な担い手である在日外国人の問題を、我々日本人は近くにいる他者として見て見ぬふりをするのではなく、同じ日本に住む仲間として目を向けるべきではないだろうか。在日外国人の暮らしやすい環境を少しずつでも考えることが、ひいては日本社会全体の福祉向上につながると信じている。まずは、個人が「在日外国人問題に関心を持つ」という小さな一歩から積み重ねていくこと、そして在日外国人の問題を通して多文化共生を考えるきっかけとなることを望む。

V 謝辞

調査にあたり、お忙しい中インタビューにお答えいただき事前の広報にもご協力くださりましたサンタナ学園園長の中田ケンコ先生、野口小児科院長の野口周三先生に深く感謝申し上げます。

愛荘町での調査と子宮頸がん・乳がん検診実施にご協力くださった、愛荘町役場政策調整室の山本亜矢子氏、定住外国人支援員河野幸栄氏、愛荘町健康推進課の小西文子氏、鈴木弘美氏、資料提供にご協力くださった長浜市健康推進課の五坪氏に厚く御礼申し上げます。また、事前の広報にご協力くださった愛荘町に工場を持つ企業、商店の皆様、そして、実際に検診にお越し頂き、アンケートにまでお答えいただいた愛荘町在住の在日ブラジル人女性の皆様に厚く御礼申し上げます。

最後に、本調査を行うに当たり、調査の事前準備から、実施、報告書の作成まで、全てにおいて熱心にご指導くださった滋賀医科大学社会医学講座衛生学部門の北原照代先生に、心より御礼申し上げます。

VI 参考文献

- ・小内透【編著】『在日ブラジル人の労働と生活』お茶の水書房、2009年、p5~12
- ・岩本弥生『ブラジルの医療と文化』2008年
- ・滋賀県『滋賀県多文化共生推進プラン』報告書、2010年4月
- ・江里口祥世、表真由子、亀谷明世、関千寿花、中村玲子、福沢早苗『在日部外国人医療をめぐる問題～保険証所持の現状と対策という観点から～』滋賀医科大学社会医学フィールド実習報告書、2007年
- ・愛荘町「愛荘町多文化共生推進プラン」(案)2011年
- ・小内透【編著】『在日ブラジル人の教育と保育の変容』お茶の水書房、2009年
- ・浅野真由美、柴田大、田邊玲玲、内貴乃生、人志村美穂、藤永あゆみ、朴秀典『外国人の受領に対する医療機関の取り組みについて』滋賀医科大学社会医学フィールド実習報告書、2000年
- ・永田文子、濱井妙子、菅田勝也『在日ブラジル人が医療サービスを利用するときのにわか通訳者に関する課題』2010年11月、Journal of International Health, Vol.25 No.3, p161~170
- ・佐竹眞明『在日外国人と多文化共生』明石書店、2011年
- ・『在日外国人医療におけるコミュニケーションギャップの現状調査と改善策の研究、調査報告書』平成16年3月 株式会社KDDI 総研
- ・岩本弥生『ブラジルの医療と文化』2008年

VII 添付資料

表1

回答者の構成（人）

愛荘町 地域住民 (ブラジル 人受診 者)	全体		13	愛荘町 地域住民 全体 出典： 愛荘町 住民調査 2009	全体		1081
	職業別	専業主婦	2		職業別	専業主婦	331
		会社員・ 公務員	10			会社員・ 公務員	281
		パート・ アルバイト	0			パート・ アルバイト	278
		自営業	1			自営業	59
	年代別	20代	1		年代別	20代	132
		30代	3			30代	236
		40代	5			40代	207
		50代	4			50代	242
	日本在住 期間	10年未満	3		日本在住 期間	10年未満	3
10年以上 20年未満		7	10年以上 20年未満	7			
20年以上		3	20年以上	3			

図1

当日の子宮頸がん・乳がん検診

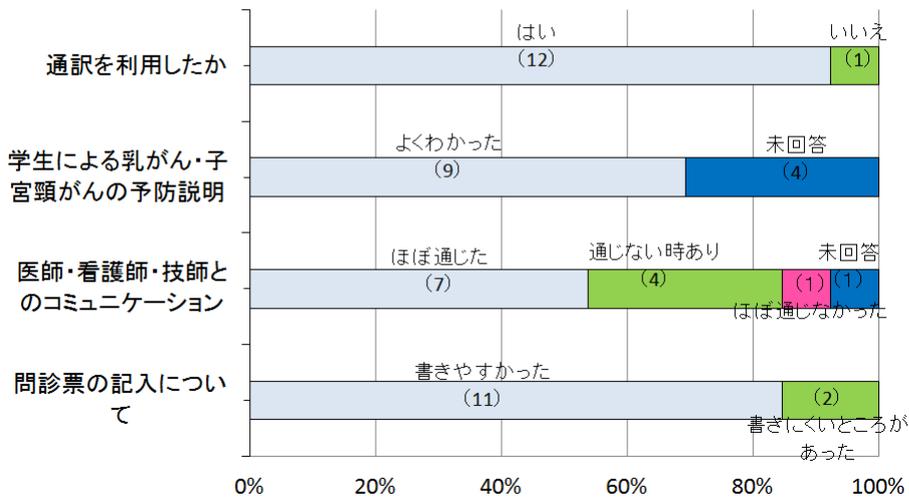


図2

今日はなぜ乳がん検診を受けましたか？

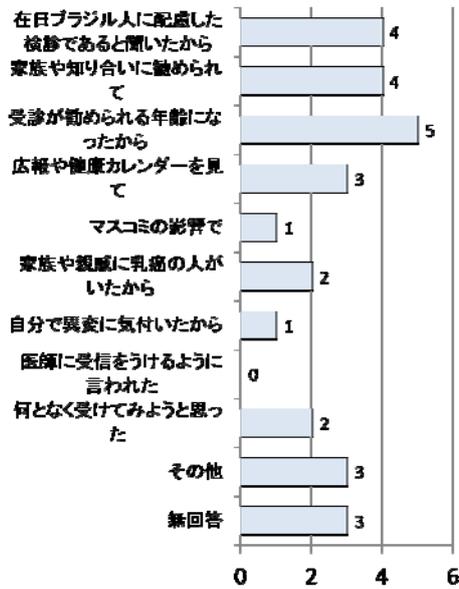


図3

今日はなぜ子宮頸がん検診を受けましたか？

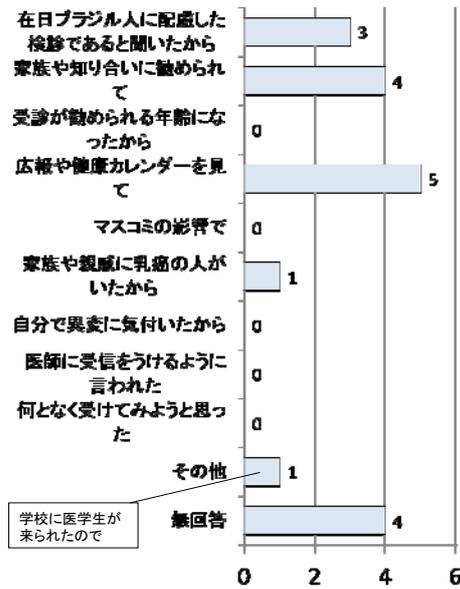


図4

今後どのような方法で知らせるのが良いと思いますか？

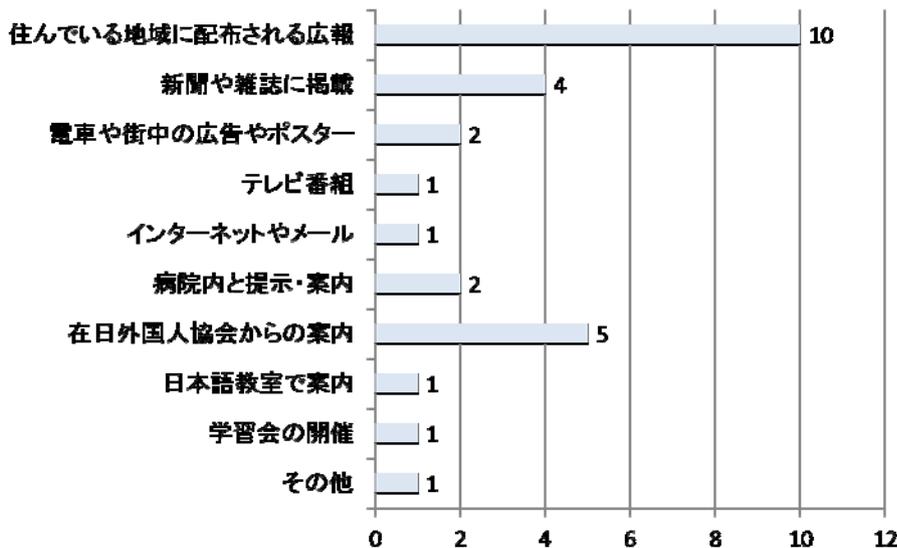


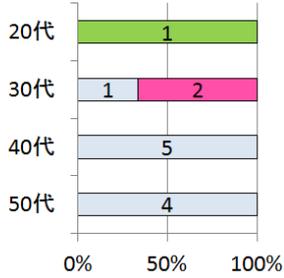
図5

乳がんについて知っていますか？

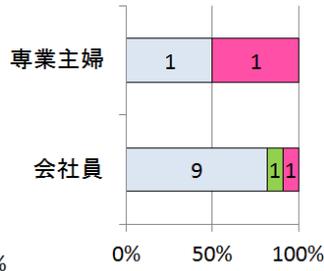
ブラジル人受診者 (13人)



年代別



職種別



日本在住期間別

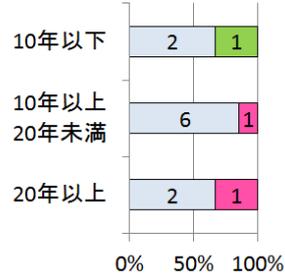
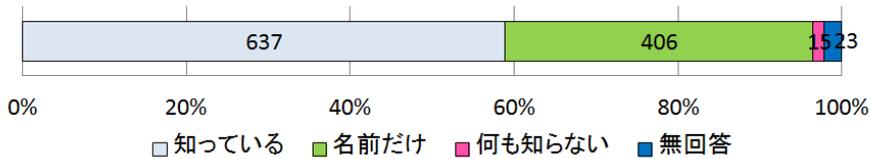


図6

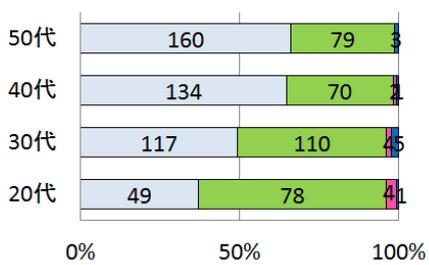
乳がんについて知っていますか？(愛荘町住民全体)

愛荘町住民全体 (1081人)

出典: 愛荘町住民調査2009



年代別



職種別

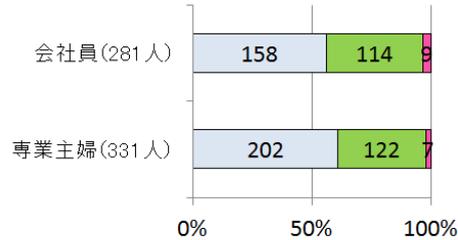


図7

乳がん検診の受診率

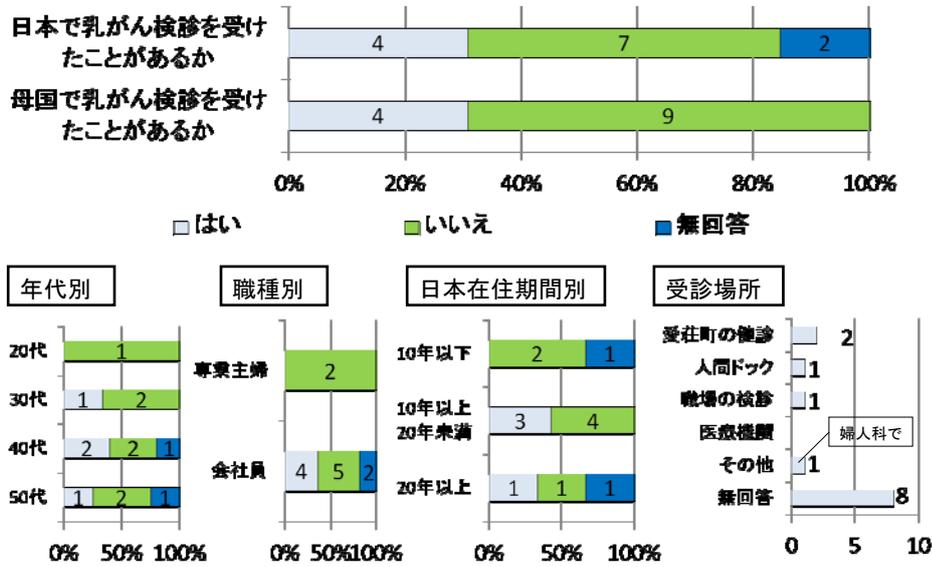


図8

乳がん検診の受診率（愛荘町住民全体）

出典：愛荘町住民調査2009

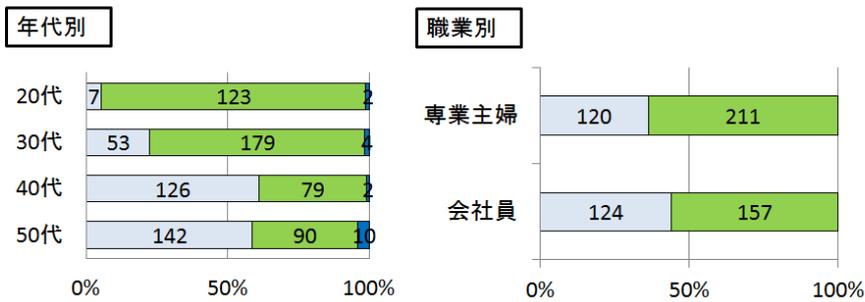
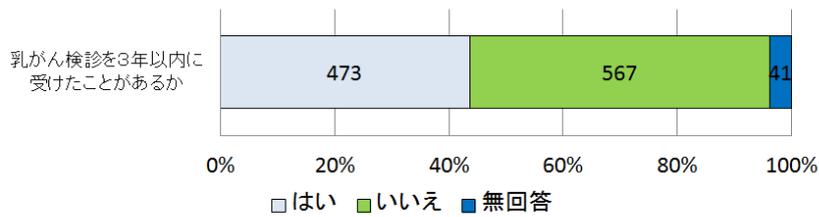


図9

日本で受けた乳がん検診について

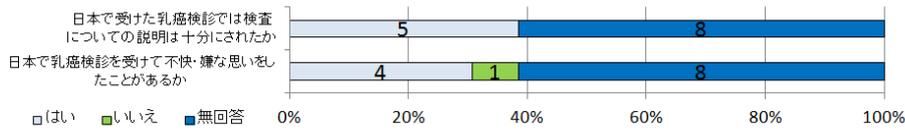


図10

日本で乳がん検診を受けたことがない理由

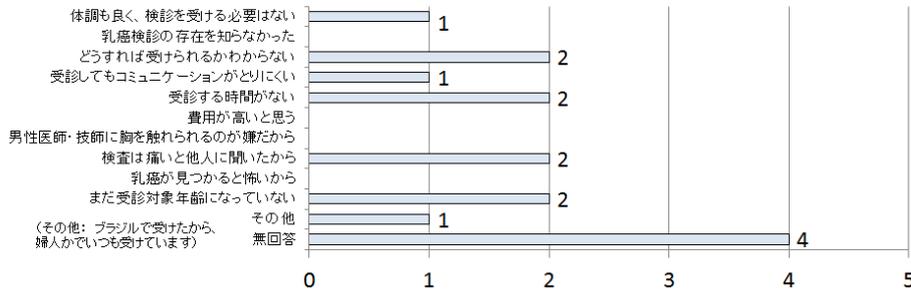


図11

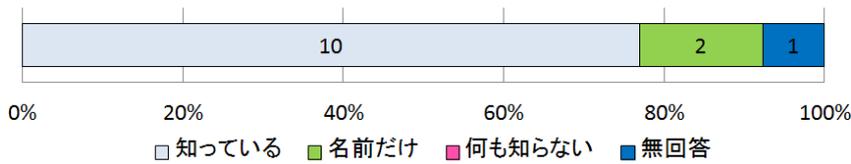
今後、乳がん検診をうけたいですか？



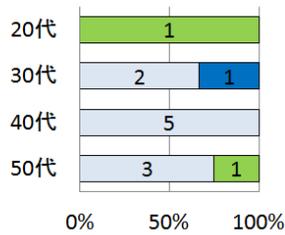
図12

子宮頸がんについて知っていますか？

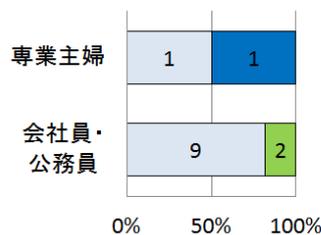
ブラジル人受診者 (13人)



年代別



職種別



日本在住期間別

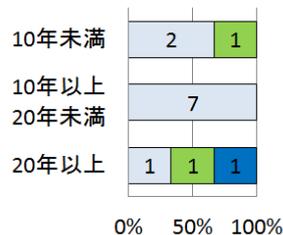
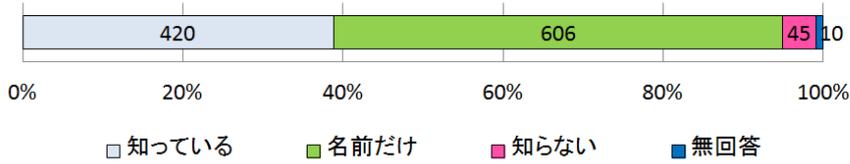


図13

子宮頸がんについて知っていますか？(愛荘町住民全体)

出典: 愛荘町住民調査2009

愛荘町住民全体 (1081人)



年代別

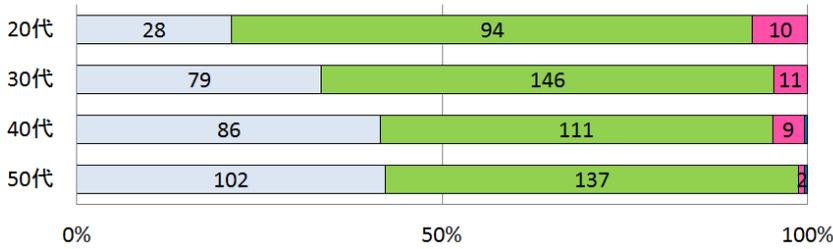
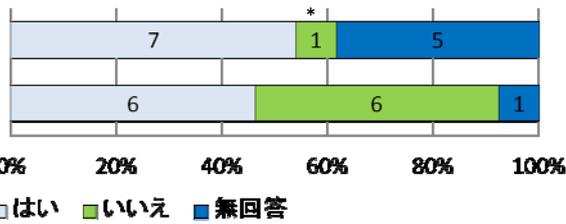


図14

子宮頸がんの受診率

日本で子宮頸がん検診を受けたことはあるか
母国では子宮頸がん検査や診察を受けたことがあるか



* 日本で検査なし 1名(50代、会社員・公務員)、理由: ブラジルで受けたから

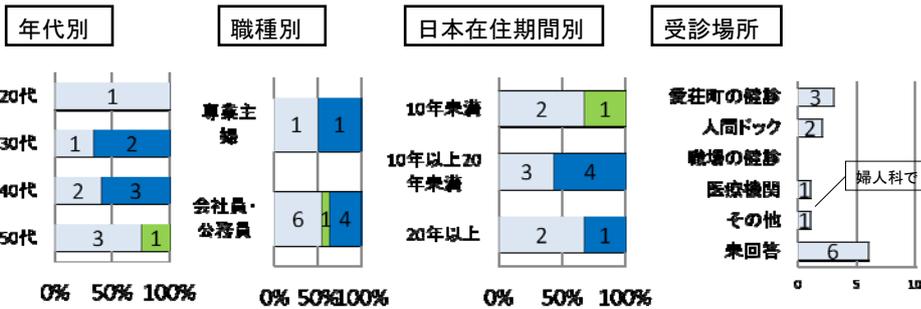


図15

子宮頸がん検診の受診率（愛荘町住民全体）

出典：愛荘町住民調査2009

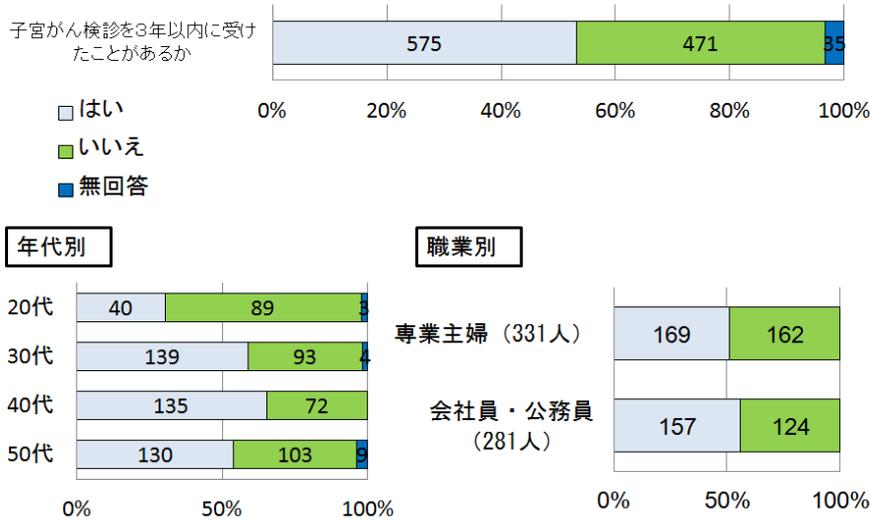


図16

日本で受けた子宮頸がん検診について

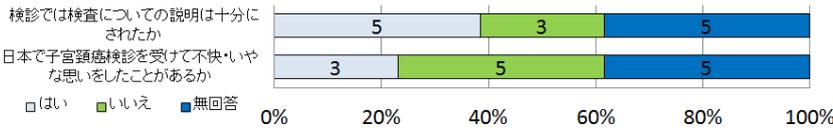


図17

日本の子宮頸がん検診で不快な思いをした理由

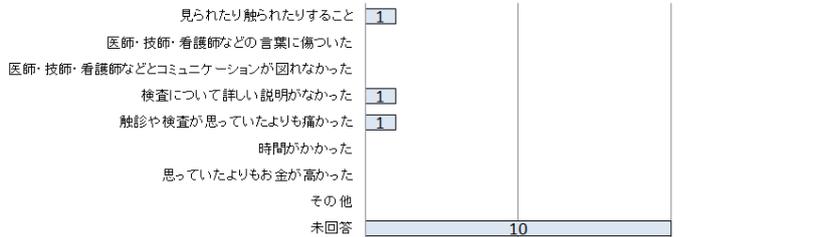
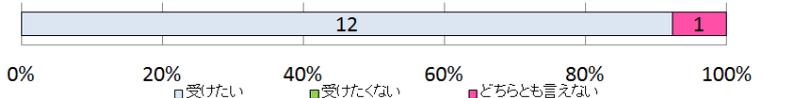


図18

今後、子宮頸がん検診をうけたいですか？



* どちらとも言えない 1名(40代、会社員・公務員)、理由:いつもの先生の所で検診するほうがいいです

表 検診についてのコメント

- ・ 皆丁寧に対応してもらいました。
- ・ とても興味深かったです。このような事は初めてでした。
- ・ とても緊張しました。
- ・ 全部良かったです。いつも病院で受けているような感じでした。
- ・ 検査はとても良くできていました。
- ・ 良かったです。